

世界史〔前期A方式(1/29)〕

設問		解答例
I	1	① コリントス(ヘラス)
		② フェニキア
		③ エトルリア(エトルスキ)
		④ アップシア
	2	(a) スパルタ
		(b)(i) ウ
		(b)(ii) エ
		(c) イ
		(d) ヴィット(-)リオ=エマヌエーレ2世
		(e) フランス
		(f)(i) シチリア
		(f)(ii) ハンニバル
	(g) アントニウス	
	II	1
② ナーランダー		
③ バラモン		
④ ラージプート		
⑤ デリー		
⑥ アクバル		
2		(a) イ
		(b) ガズナ朝
		(c) ハルジー朝
		(d) カーブル
		(e) アウラングゼーブ
		(f) マンサブダール制
		(g) タージ=マハル
		III
B ウィリアム3世(ウィレム)		
C エカチェリーナ2世		
D ヴィルヘルム2世		
2	① ばら	
	② 星室庁	
	③ メアリ	
	④ プガチョフ	
	⑤ ポーランド	
	⑥ クリミア	
	⑦ ビスマルク	
	⑧ 社会主義者鎮圧法	
3	(a) プランタジネット朝	
	(b) 名誉革命	
	(c) エドワード1世	
	(d) ア	
(e) エ		
IV	1	A ク
		B イ
		C エ
		D ウ
		E オ
	2	(a) 駅伝制(ジャムチ)
		(b) カラコルム
		(c)(i) フビライ(クビライ・世祖)
		(c)(ii) 北京
		(d) イ
		(e) 徐光啓
		(f)(i) アロー戦争(第2次アヘン戦争)
		(f)(ii) ウ

世界史〔前期B方式(1/30)〕

設問		解答例	
I	1	① 卿	
		② 郷拳里選	
		③ 九品	
		④ 武則天(則天武后)	
		⑤ 殿試	
		⑥ 四書	
	2	(a) 墨家	
		(b) 呉楚七国の乱	
		(c) 清談	
		(d) 大興城	
		(e) 司馬光	
		(f) ウ	
	II	1	① ノルマン(デーン)
			② ロロ
③ ユーグ=カペー			
④ オットー1世			
⑤ マジャール			
⑥ カール5世			
⑦ シュマルカルデン			
⑧ アウクスブルク			
⑨ スレイマン1世			
⑩ カルヴァン			
2		(a) ウィリアム1世	
		(b) ア	
		(c) アンリ4世	
III	1	① 白蓮	
		② 朱元璋(洪武帝)	
		③ 李成桂	
		④ 足利義満	
		⑤ 海禁	
		⑥ ホンタイジ(太宗)	
	2	(a) 鄭和	
		(b) アルタン(アルタン=ハン)	
		(c) 李舜臣	
		(d) 朝鮮通信使	
		(e) 八旗	
		(f) 小中華	
		(g) 両班	
IV	1	① グロティウス	
		② アダム=スミス	
		③ ルソー	
		④ マルクス	
		⑤ レーニン	
	2	(a) ウ	
		(b) エ	
		(c) ウ	
		(d) 穀物法	
		(e) ロベスピエール	
		(f) エ	
		(g) イ	

世界史〔中期(2/16)〕

設問		解答例
I	①	3
	②	2
	③	1
	④	3
	⑤	4
	⑥	2
	⑦	1
	⑧	4
	⑨	4
	⑩	2
	⑪	1
II	⑫	1
	⑬	3
	⑭	3
	⑮	1
	⑯	4
	⑰	3
	⑱	2
	⑲	2
	⑳	5
III	㉑	3
	㉒	1
	㉓	3
	㉔	2
	㉕	2
	㉖	3
	㉗	2
	㉘	1
	㉙	1
	㉚	4
	㉛	4
IV	㉜	3
	㉝	2
	㉞	3
	㉟	2
	㊱	1
	㊲	4
	㊳	2
	㊴	2
	㊵	4
	㊶	3
㊷	2	

世界史〔前期 A 方式 1/29〕

I 紀元前 4 世紀の地中海世界

問 2(c) 下線部 c の分裂前の王国の支配者はアレクサンドロス大王。大王の死後、ディアドコイ(後継者)の争いが起こり、アンティゴノス朝・セレウコス朝・プトレマイオス朝などに分裂した。

(d) サルディニア王国は、国王ヴィットーリオ＝エマヌエーレ 2 世と首相カヴールのもとで勢力を拡大し、1861年にイタリア王国を建国した。

(g) 第 2 回三頭政治に参加した人物は、オクタウィアヌス、レビドゥス、アントニヌス。アントニヌスは、その後プトレマイオス朝のクレオパトラと結び、アクティウムの海戦でオクタウィアヌスに敗れた。

II インドの歴史

問 2(a) チョーラ朝は「海の道」を利用した交易活動を活発に行い、10～11 世紀に最盛期を迎えた。しかし、13 世紀にバーンディヤ朝に滅ぼされており、14 世紀に成立する明とは時代は重なっていない。

(e) 第 6 代ムガル皇帝アウラングゼーブは、イスラーム教に深く帰依しており、ヒンドゥー教寺院の破壊や、人頭税を復活させるなどヒンドゥー教への圧迫を強めた。

(f) マンサプダール制は第 3 代皇帝アクバルが定めた制度で、これによってすべての臣下の序列が定められた。「マンサプ」は「位階」を意味する。

III 中世から近代にかけてのヨーロッパ君主

問 3(b) イギリスの議会は、絶対王政の復活をめざすジェームズ 2 世に反発し、オランダからウィレム 3 世を招いた。大きな混乱や流血もなく行われた革命ということで「名誉革命」と呼ばれた。

(d) 国内第一党となった社会民主党は、マルクス主義に基づく社会主義実現をめざしたが、ベルンシュタインを中心とする修正主義は、議会を通じての社会主義化を主張した。

(e) ドイツの 3 B 政策は、皇帝ヴィルヘルム 2 世によって進められた、ベルリン・ビザンティウム(イスタンブル)・バグダードを結ぶ帝国主義政策。

IV 東アジアを訪れたキリスト教宣教師

問 2(a) 駅伝制、モンゴル語でジャムチと呼ばれるこの制度は、幹線道路に沿って駅が設けられ、周辺の住民から提供された馬や食料などが置かれた。

(e) マテオ＝リッチとともに西洋学術の導入につとめた徐光啓は、『崇禎曆書』のほか、『坤輿万国全図』や『幾何原本』の編集にも携わった。

(f)(ii) 1860年に結んだ北京条約で、天津など 11 港の開港、キリスト教の内地布教権、外国人の旅行の自由、外国公使の北京駐在などを認めた。

世界史〔前期 B 方式 1/30〕

I 中国の官僚登用法

問 2(a) 墨子を祖とする墨家は、血縁をこえた無差別の愛(兼愛)や、戦争を侵略の手段として否定する(非攻)などを説いた。

(c) 清談は魏・晋時代に流行した老荘思想に基づく哲学議論で、おもに上流貴族社会の流行となった。「竹林の七賢」は、魏から晋にかけて清談にふけたとされる七人の人物のこと。

(f) 清朝末期に、近代国家建設に向けた光緒新政が行われた。その一連の政策の一つとして、1905年に科挙は廃止された。

II 中世および近世のフランスとドイツの歴史

問 2(a) 10 世紀初めに、ロロが率いるヴァイキングの一派が北フランスにノルマンディー公国を建国した。1066年にウィリアム 1 世としてイングランド王となったのは、公国の支配者ノルマンディー公ウィリアムである。

(b) 13 世紀後半、イタリア政策を進めたシュタウフェン朝の滅亡後、皇帝が不在の「大空位時代」が続いた。この時期に聖俗諸侯や帝国都市の自立化が進んだ。

III 近世の中国・朝鮮・日本の関係

問 2(a) 鄭和は永楽帝から命じられ、インド洋からアフリカ沿岸

にまでいたる南海遠征を行った。この遠征は、南海諸国が明朝へ朝貢するきっかけとなった。

(d) 朝鮮通信使は、朝鮮から日本に派遣された使節で、将軍の代わりなどにあわせて来日した。

(g) 両班とは、科挙制度のなかで有力となった、高麗や朝鮮の時代の特権的支配階層をさす。朝鮮時代には、官僚を事実上独占した。

IV 近現代西洋の思想家たち

問 2(a) 16 世紀のフランスの思想家ボーダン(ボダン)は、主著『国家論』の中で国家主権の概念を説いた。17 世紀にはボシュエが王権神授説を唱えて、絶対王政を正当化した。

(d) 安価な大陸産穀物から国内の農業を保護するため、輸入穀物に高関税を課す穀物法が制定された。しかし、自由貿易を主張するコブデンやブライトらの活動によって自由貿易運動が高まり、1846年に廃止された。

(e) ジャコバン派の指導者ロベスピエールは、公安委員会の主導権をにぎって恐怖政治を行ったが、テルミドール 9 日のクーデタで逮捕され、処刑された。

世界史〔中期 2/16〕

I 東アジアの文字

- 問2 王羲之は、「書聖」と仰がれた東晋の書家で、楷書・行書・草書の書体を確立し、後世に大きな影響を与えた。代表的な作品に「蘭亭序」がある。
- 問7 李斯は、丞相として秦の始皇帝に仕えた法家の政治家。中央集権化を進めるため、郡県制や焚書・坑儒などの建策を行ったが、始皇帝の死後に処刑された。
- 問9 安史の乱は、玄宗の統治の後半に、節度使の安祿山や史思明が中心となって起こした反乱。ウイグルの援助を得た唐軍に平定された。この乱後、節度使の自立化が進んだ。

II 近現代西洋諸国の海洋をめぐる動向

- 問4 ルイ14世は、軍隊を強化し、南ネーデルラント継承戦争(1667~68年)、オランダ戦争(1672~78年)、ファルツ戦争(アウクスブルク同盟戦争、1688~97年)、スペイン継承戦争(1701~13年)などの侵略戦争を行った。
- 問6 ナポレオンはイギリスに対する経済制裁として大陸封鎖令を発して、大陸諸国とイギリスの通商や通信を禁じた。しかし、イギリス市場を失った諸国のあいだで不満が高まり、ロシアなどの離反を招いた。
- 問8 当初、中立の立場を守っていたアメリカ合衆国は、1917年にドイツが無制限潜水艦作戦をとったことをきっかけに、連合軍側で参戦した。

III 西アジアの歴史

- 問2 11世紀、セルジューク朝がビザンツ帝国領に侵入したことで、ビザンツ皇帝はローマ教皇に救援を要請した。その結果クレルモン宗教会議が開かれ、十字軍が派遣されることになった。
- 問6 ムスリムの義務である五行とは、信仰告白・礼拝・喜捨・断食・メッカ巡礼の5つ。また、ムスリムが信じるべき信条として、神・天使・各種の啓典・預言者たち・来世・神の予定の六信がある。

IV ローマ帝国の文化

- 問1 五賢帝は、ネルウァ・トラヤヌス・ハドリアヌス・アントニヌス=ピウス・マルクス=アウレリウス=アントニヌスの5皇帝。マルクス=アウレリウス=アントニヌスはストア派の哲学者としても知られる。
- 問3 ブリテン島南部がローマ帝国領となったのは、帝国の領土が最大となったトラヤヌス帝の頃のこと。
- 問11 ローマ市民権は、212年のカラカラ帝のときに、帝国の全自由人に与えられた。